

テーマ：貿易統計（2010年11月）
発表日：2010年12月22日（水）

～中国向け輸出が改善～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量				
			輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU	アジア		アメリカ		EU	アジア
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
09	1月	▲ 9679	▲ 5256	▲ 45.7	▲ 31.8	▲ 40.9	▲ 48.6	▲ 42.0	▲ 39.1	▲ 11.8	▲ 22.8	▲ 15.3	▲ 10.8		
	2月	708	▲ 422	▲ 49.4	▲ 42.7	▲ 45.3	▲ 55.5	▲ 45.6	▲ 40.6	▲ 25.2	▲ 24.3	▲ 27.4	▲ 30.7		
	3月	▲ 54	▲ 1505	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 41.2	▲ 49.5	▲ 49.6	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 22.6	▲ 27.5	▲ 20.7		
	4月	490	▲ 257	▲ 39.1	▲ 35.5	▲ 35.8	▲ 49.4	▲ 42.8	▲ 28.8	▲ 20.2	▲ 27.2	▲ 29.7	▲ 18.9		
	5月	2814	2229	▲ 40.9	▲ 42.2	▲ 36.2	▲ 46.9	▲ 40.2	▲ 27.6	▲ 23.9	▲ 34.9	▲ 28.7	▲ 23.1		
	6月	4870	4258	▲ 35.8	▲ 41.7	▲ 27.7	▲ 38.3	▲ 36.1	▲ 19.1	▲ 18.1	▲ 35.8	▲ 23.7	▲ 13.7		
	7月	3657	2947	▲ 36.5	▲ 40.6	▲ 27.6	▲ 34.7	▲ 36.4	▲ 18.6	▲ 14.9	▲ 30.3	▲ 24.3	▲ 11.5		
	8月	1652	3691	▲ 36.0	▲ 41.0	▲ 25.4	▲ 29.3	▲ 39.0	▲ 15.8	▲ 12.8	▲ 29.3	▲ 15.3	▲ 7.7		
	9月	5176	3548	▲ 30.6	▲ 36.8	▲ 21.8	▲ 27.3	▲ 31.7	▲ 9.5	▲ 10.1	▲ 22.1	▲ 19.1	▲ 7.6		
	10月	8001	5784	▲ 23.2	▲ 35.5	▲ 13.0	▲ 21.1	▲ 26.7	▲ 1.9	▲ 11.7	▲ 6.0	▲ 20.4	▲ 10.5		
	11月	3653	5375	▲ 6.3	▲ 16.7	▲ 1.5	▲ 6.2	▲ 18.5	11.9	▲ 2.0	▲ 9.9	▲ 4.2	1.6		
	12月	5425	6335	12.0	▲ 5.5	14.7	▲ 2.4	▲ 1.5	32.9	▲ 0.8	▲ 2.1	▲ 2.4	3.5		
10	1月	610	6756	40.9	8.9	41.3	18.2	14.1	63.7	2.2	3.6	▲ 0.6	5.6		
	2月	6473	5355	45.3	29.5	45.9	47.2	15.5	53.5	23.0	4.5	13.7	39.3		
	3月	9499	6839	43.5	20.6	43.9	30.9	28.4	49.0	16.9	6.4	16.6	17.5		
	4月	7349	5561	40.4	24.3	39.5	39.8	32.4	40.6	17.6	21.2	13.1	19.8		
	5月	3160	3304	32.1	33.6	31.9	20.3	34.7	28.2	22.3	24.6	22.3	27.5		
	6月	6822	4935	27.7	26.2	27.5	27.4	27.3	26.6	18.1	24.9	23.5	19.2		
	7月	7992	5981	23.5	15.8	25.5	27.5	31.7	22.9	13.8	22.0	24.0	14.3		
	8月	840	5905	15.5	17.9	14.2	11.5	26.7	14.6	19.1	18.1	16.5	20.9		
	9月	7885	6268	14.3	10.0	16.1	17.0	29.2	14.6	10.5	7.5	10.0	13.4		
	10月	8213	5757	7.8	8.8	5.3	9.5	11.3	5.9	5.7	▲ 11.2	11.6	7.9		
	11月	1628	4257	9.1	14.2	9.2	11.0	25.9	11.3	15.4	20.8	1.8	19.7		

(出所)財務省「貿易統計」

○ 10-12月期の輸出は悪化

財務省が本日発表した2010年11月の貿易統計では、輸出金額が前年比+9.1%となり、事前の市場予想(同+10.3%、当社予測：+11.5%)を下回った。物価変動の影響を除いた実質輸出を季節調整値でもみて(実質化と季節調整は当社)前月比▲1.0%と、10月の同▲0.7%に続いて2ヶ月連続で減少している。この結果、10、11月平均の水準は7-9月期を2.4%ポイント下回った。

10、11月の結果を踏まえると、SNAベースの実質輸出は10-12月期に前期比で明確な減少に転じる可能性が高く(7-9月期：同+2.5%)、弱含み傾向が鮮明になる見込みである。国内生産の落ち込みを受けて実質輸入も前期比で減少が予想されるが(7-9月期：同+3.0%)、輸出の減少幅の方が大きいとみられ、外需寄与度はマイナスになる可能性が高いだろう。10-12月期のGDPは、個人消費の落ち込みを主因にマイナス成長が予想されているが、外需についても足を引っ張る要因になりそうだ。

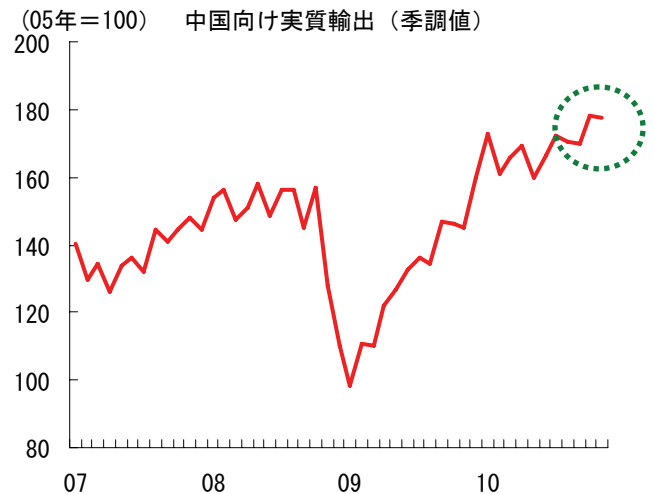
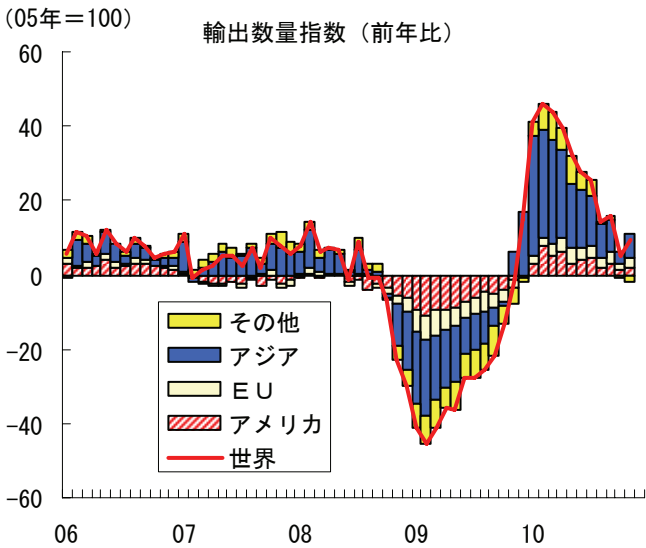
世界景気が減速傾向にあることや在庫復元効果の一巡、IT関連財の在庫調整、既往の円高の悪影響顕在化などの要因が、こうした輸出の弱含みの背景にある。年度内はこうした状況が続くとみられ、輸出は低迷が予想される。もっとも、後述の通り、中国向け輸出など一部で改善の兆しもみられていることから考えると、輸出の悪化ペースが加速していくことは見込み難い。2011年4-6月期には、海外経済の持ち直しや円高の悪影響一巡、IT分野の在庫調整一巡などを背景に輸出が持ち直す可能性が高いと予想している。

○ 地域別の動向

地域別の動きをみると、米国向け輸出(実質、季節調整は当社)は前月比▲2.3%(10月：同▲1.3%)と

2ヶ月連続で減少し、10-11月平均の水準も7-9月期を4.6%ポイント下回っている。EU向け輸出は前月比+2.8%と増加したが、10月に同▲2.4%と落ち込んだ反動の面もあり、10-11月平均の水準は7-9月期を0.2%ポイント下回っている。7-9月期までは米国向け、EU向けとも底堅さを保ってきたが、足元では弱含みに転じている。景気が緩やかに減速していることに加え、既往の円高の悪影響が及んでいる可能性が高い。もっとも、米国経済の減速については、一時期懸念されたほどのものにはなっておらず、クリスマスセールスも好調に推移している模様である。円高の悪影響が薄れるとみられる来年春以降には、米国向け輸出も下げ止まる可能性が高いと予想している。

アジア向け輸出は前月比▲0.9%（10月：同+1.1%）と低下し、10-11月平均も7-9月期を0.2%下回った（7-9月期：前期比+1.7%）。NIEs向け輸出が、IT関連財の在庫調整の影響から落ち込んだ（10-11月平均の7-9月期比：▲1.1%）ことが足を引っ張った。一方で良好な結果だったのが中国向けであり、10-11月平均の水準は7-9月期を4.1%上回っている。中国向け輸出は、4-6月期、7-9月期は減速傾向が目立っていたが、10-12月期は伸びが再び高まる可能性が出てきた。中国では景気の減速に歯止めがかかっていることを示唆する指標も多く、今後も輸出増が期待できる。中国向け輸出に改善の兆しが出ていることは、先行きの輸出を占う上で明るい材料と言えるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。